

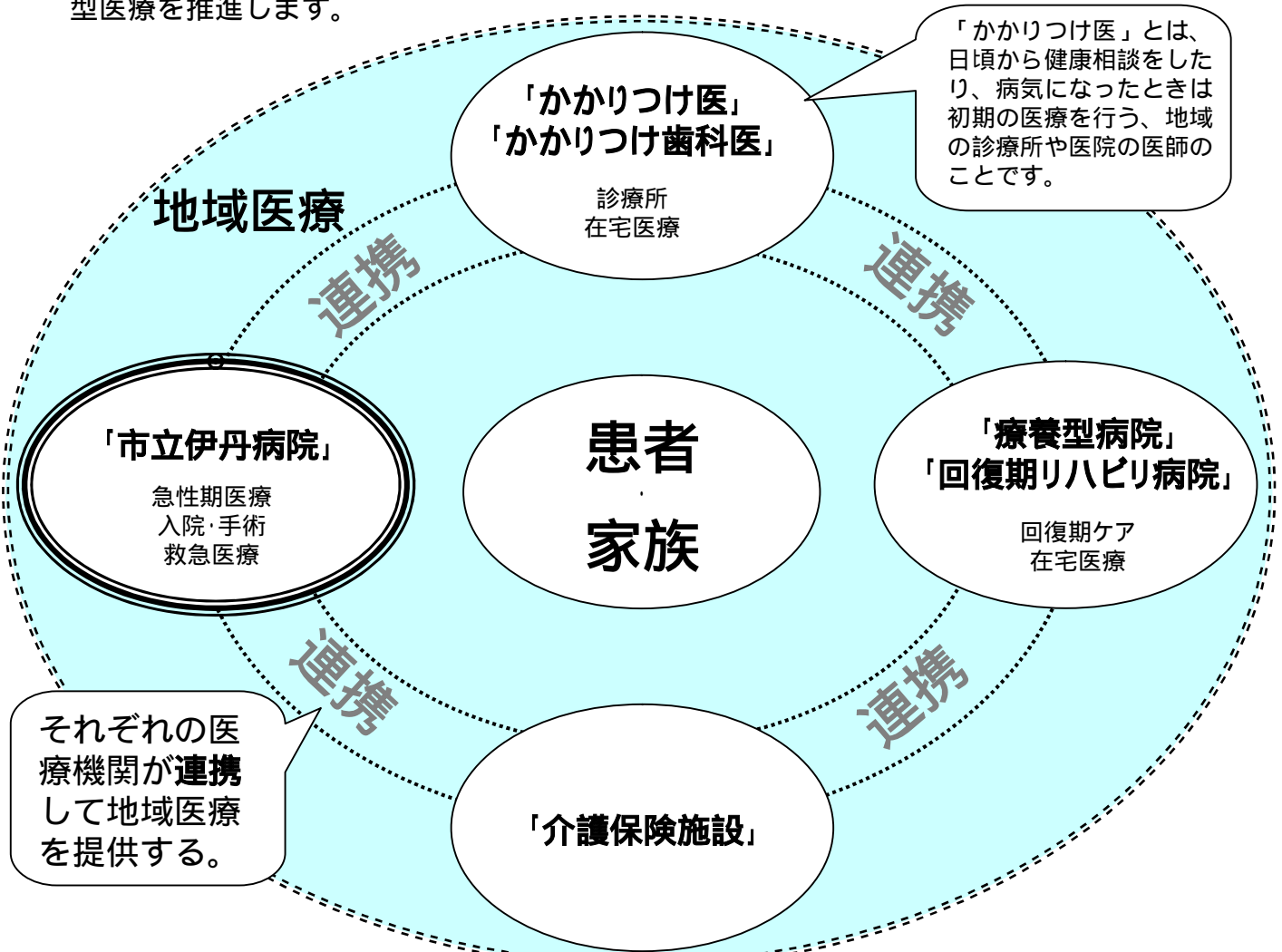
市立伊丹病院中期事業計画の概要

「安全で質の高い医療を効率的に提供する」

地域完結型医療の推進

地域完結型医療とは、医療環境の変化に対応するため、今までのように総合病院が全ての役割を果たすのではなく、各医療機関がそれぞれの役割に特化し、その連携により切れ目のない医療を提供することです。

市立伊丹病院は、入院や手術などの必要な急性期医療や救急医療に機能特化し地域完結型医療を推進します。



- ・地域完結型医療を推進し、地域医療支援病院の役割を果たす。
- ・がん診療連携拠点病院の役割を果たす。
- ・阪神北医療圏域内の二次救急医療、災害医療に関する拠点病院の役割を果たす。
- ・高度専門医療に関する拠点病院の役割を果たす。
- ・病院機能評価認定病院となる。

市立伊丹病院中期事業計画の概要

第1．はじめに

1．地域医療の現状

依然として全国的に病院経営状況は厳しい状況にある。景気低迷を背景とした診療報酬の抑制政策、医師不足などが主な原因として挙げられる。このような状況の下、国は地域完結型医療を中心とした医療制度改革を示している。

2．計画目的

市立伊丹病院改革プランどおりの経常収支の黒字化をはじめ兵庫県指定がん診療連携拠点病院の指定、地域医療支援病院の取得など順調に進んでいる。しかし、医療環境は依然として厳しい。このような状況の下、中期事業計画を策定実行し、継続して地域医療の提供に努めていく。

3．計画期間

平成24年度から平成26年度。(3カ年)

4．これまでの第3次市立伊丹病院経営健全化計画と市立伊丹病院改革プランにおける取り組み

- ・医療制度に沿った医療機能の強化。
- ・医業費用の抑制に対する取り組み。
- ・医師を含む医療従事者確保の取り組み。
- ・医療職の専門性の向上。
- ・地域の医療従事者への支援と市民に対する啓発活動。
- ・アメニティー（コンビニエンスストアと緑化庭園の設置）。
- ・ボランティア（院内ボランティア活動支援など）。
- ・ベンチマーク（他医療機関と経営指標などを比較し、当院の業務や経営を改善）。
- ・経営の効率化（平成22年度決算：経常収支の黒字化）。

第2．中期事業計画

1．基本的な考え方

- ・地域完結型医療を推進し、地域医療支援病院の役割を果たす。
- ・がん診療連携拠点病院の役割を果たす。
- ・阪神北医療圏内の二次救急医療、災害医療に関する拠点病院の役割を果たす。
- ・高度専門医療に関する拠点病院の役割を果たす。
- ・病院機能評価認定病院となる。

2. 人員配置計画

病院機能向上のため、平成27年度を目途として、医師120人体制を目指す。看護師は7:1以上の充実した看護体制を堅持しつつ、看護師の増加を図りながら休床病床の稼働を目指す。

3. 病院機能整備計画

- ・高度で専門的な医療を安全に行うため、医師の増員を行っており、医師増員の対応策として医局の増築を行う。
- ・内視鏡関係の検査・治療は専門高度化しており、日進月歩の医療技術の中でも特に進歩の早い方の技術の一つである。それらを市民へ提供できる体制を整えるため、内視鏡センターを設置する。
- ・医療圏での拠点施設として人工関節センターを設置する。
- ・高齢化などにより、がん患者が今後増加するものと予測され、それに対応するため外来化学療法室を拡充させる。
- ・医療の質を確保するため医療情報システム（電子カルテ）を更新する。

4. 収支計画について

収支計画表添付（経常収支黒字化の継続）

5. アクションプランについて

第3次市立伊丹病院経営健全化計画と市立伊丹病院改革プランで実行してきたアクションプランについては、今後も充実させながら継続していく。

第3. 各部署の中期行動計画ビジョン

1. 診療部 人材育成充実、並びに専門性向上とともに地域連携の強化をする。
2. 感染対策室 感染症診療の向上、並びに地域連携の強化をする。
3. 医療安全対策室 院内医療安全における啓発、環境整備、研修を行う。
4. 地域医療連携室 安全で質の高い医療に貢献し、がん診療や地域連携を充実させる。
5. 看護部 患者、家族から信頼され安心して医療が受けられる看護を目指す。
6. 医療技術部 医療技術の質と専門性を高め、病院機能の向上に寄与する。
7. 薬剤部 安全で質の高い医療に貢献し、がん診療や地域連携を充実させる。
8. 事務局 管理運営系システムや診療支援を充実させ、地域医療に貢献する。
9. 医療チーム 他職種連携を充実させ、チーム医療を行っていく。